

精神保健福祉センター 所報

令和5年度

鹿児島県精神保健福祉センター

巻頭言

令和5年度の鹿児島県精神保健福祉センター所報が完成しましたので、ここにご報告いたします。当センターの活動にご協力いただきました関係各位に深く感謝申し上げます。

令和5年度において、当センターの業務だけでなく、日本全体において、大きなインパクトを与えた出来事のひとつは、令和5年5月8日から新型コロナウイルス感染症の位置づけが「5類感染症」になったことです。コロナ禍の「緊急事態宣言」「ソーシャルディスタンス」「新しい生活様式」において制限もしくは自粛されていた様々な活動が解除され、当センターにおいて多くの研修会や会議はオンラインから参集形式に戻りました。「人が集まって語り合うこと、楽しむこと、騒ぐこと」は「不要不急」とされましたが、それは誰かにとっての「必要急務」なこともあったのだろうと、コロナ禍における自殺の状況、とくに女性や子ども・若者の状況をみて感じるところです。

当センターの業務の普及啓発や技術援助・教育研修において、自殺対策や依存症対策、思春期精神保健福祉、高次脳機能障害などの研修会の多くが参集形式で実施できるようになり、会場の一体感が生まれ、参加者・関係者の連携が醸成される環境となりました。また、色々な地域や職種におけるメンタルヘルスに関する興味・関心の高まりとコロナ禍の自粛期間が終わったこともあり、多くの関係機関から講演する機会を与えていただき、感謝申し上げます。

令和6年4月の精神保健福祉法の改正に向けて、令和5年度の精神医療審査会では非自発的入院に関わる審査件数の増加を想定し、準備してまいりました。

自立支援医療費（精神通院）及び精神障害者保健福祉手帳の申請・承認件数は年々増加しておりますが、交付は遅滞なく進めています。

精神保健福祉の技術的中核機関としての当センター役割を果たし、県民の精神保健福祉の増進を図るために努めてまいります。今後も当センターの業務に関しまして関係各位の皆様の益々のご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

令和7年1月

鹿児島県精神保健福祉センター

所長 春日井 基文

目 次

巻頭言

I 概要

- 1. 沿革・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 2. 組織，職員及び施設概要・・・・・・・・ 1

II 事業実績

- 1. 普及啓発・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- 2. 技術援助・教育研修・・・・・・・・ 2
- 3. 精神保健福祉相談・・・・・・・・ 9
- 4. 思春期精神保健対策事業・・・・・・・・ 1 1
- 5. 依存症対策関連事業・・・・・・・・ 1 2
- 6. 調査研究・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 3
- 7. 関係団体の育成・・・・・・・・ 1 4
- 8. 精神医療審査会の審査に関する事務・・・・・・・・ 1 5
- 9. 自立支援医療費（精神通院）及び精神障害者保健福祉手帳の判定交付事務・ 1 6
- 10. 高次脳機能障害者支援センター・・・・・・・・ 1 8
- 11. 自殺予防情報センター・・・・・・・・ 1 9

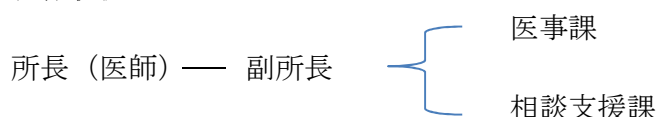
I 概要

1. 沿革

- ・昭和 42 年 4 月 「精神衛生センター」として発足
- ・昭和 63 年 7 月 精神保健法の施行に伴い、「精神保健センター」に改称
- ・平成 7 年 7 月 精神保健法の改正に伴い、「精神保健福祉センター」に改称
- ・平成 14 年 4 月 精神保健福祉法の改正に伴い、精神医療審査会事務及び、通院医療費公費負担・精神障害者保健福祉手帳判定業務を開始
- ・平成 20 年 9 月 「高次脳機能障害者支援センター」設置
- ・平成 21 年 9 月 「自殺予防情報センター」設置
- ・平成 23 年 3 月 現在地（ハートピアかごしま 2 階）に移転
- ・平成 29 年 9 月 「依存症に関する相談の拠点」設置

2. 組織、職員及び施設概要 （R 5.4.1 現在）

（1）組織状況



（2）職種別職員数

職種	精神科医師	事務	保健師	心理	計	会計年度 任用職員
人数	1	6	4	1	12	4

*事務 務：うち 2 人はハートピアかごしま総務課職員兼務

*会計年度任用職員：高次脳機能障害者支援員 1 人，自殺対策調整員 1 人，補助事務員 2 人

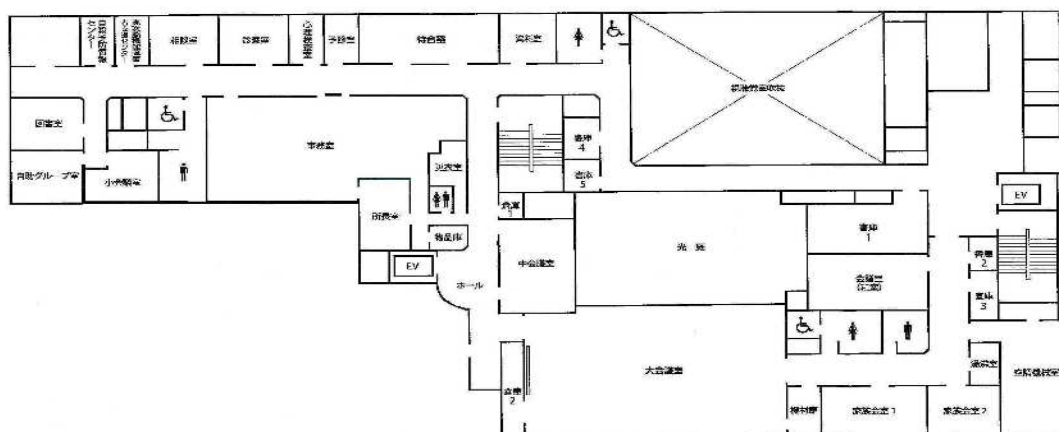
*非常勤職員：精神医療審査会委員 3 2 人

自立支援医療費（精神通院）及び精神障害者保健福祉手帳判定会委員 4 人

（3）施設概要

①所在地：鹿児島市小野一丁目 1 番 1 号（ハートピアかごしま 2 階）

②平面図



Ⅱ 事業実績

1. 普及啓発

一般住民に対して精神保健福祉や精神障害に関する知識について普及啓発を行うとともに、保健所及び市町村が行う普及啓発活動に対して協力及び援助を行っている。

(1) 普及啓発

内 容	実施数(回)	参加人数(人)
依存症家族教室	20	46
依存症回復支援研修会	1	273
高次脳障害理解のための講演会	1	57
心の健康を考えるつどい（鹿児島県精神保健福祉協議会主催）	1	91
計	23	467

(2) リーフレットの作成・配布

	内 容	配 布 先
1	「お酒・薬物・ギャンブルなどのことで悩んでいませんか？」リーフレット作成	自動車学校など関係機関に配布

2. 技術援助・教育研修

地域精神保健福祉活動を推進するため、保健所、市町村及び関係機関に対し、技術援助や研修を行っている。

(1) 技術援助

(単位:件)

項 目	老人精神保健	社会復帰	アルコール	薬物	ギャンブル	思春期	心の健康づくり	ひきこもり	自殺関連	犯罪被害	災害	高次脳機能障害	その他	計	電話
実施件数 対象 機関・施設	5	3	6	9	6	4	6	0	13	3	5	0	173	233	160
保健所	1	0	1	0	2	0	1	0	1	0	0	0	6	12	33
市町村	1	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	4	28
医療施設	2	1	1	4	1	0	0	0	0	0	2	0	9	20	15
その他	1	2	4	5	3	4	5	0	9	3	3	0	158	197	84
合 計	5	3	6	9	6	4	6	0	13	3	5	0	173	233	160

注) 実施件数は、技術援助を行った会議や研修会等の回数であり、一回の会議や研修会等で複数の対象機関や施設に技術援助を行うことがあるため、対象機関や施設の合計と実施件数は必ずしも一致しない。

(2) 職員の派遣及び関連会議等への出席状況

①保健所等

依 頼 機 関	内 容	従事者
県地域振興局・支庁 保健福祉環境部(保健所)	十島村巡回相談(伊集院保健所)	所長
	十島村における精神保健福祉相談に関する情報共有, 意見交換会(伊集院保健所)	所長
	令和5年度鹿児島地域連絡協議会(鹿児島地域振興局)	所長
	自殺未遂者支援連携体制事業連絡会(名瀬保健所)	所長
	屋久島地区精神保健福祉相談及び老人保健福祉相談(屋久島保健所)	所長
	始良・伊佐地区「心の健康教室」(始良・伊佐地域振興局)	所長
	地域連携推進研修会(徳之島保健所)	所長
	十島村精神保健福祉相談 オンライン(伊集院保健所)	所長
	保健所長会	所長
	精神障害者家族相互支援推進事業家族支援教室(名瀬保健所)	心理士
鹿児島市	自殺予防対策委員会	課長
南薩・鹿児島郡地域保健活動連絡協議会	南薩・鹿児島郡地域保健活動連絡協議会各地町村広報誌寄稿「高齢者の自殺と自殺予防」	所長
南種子福祉事務所	熊毛ブロック福祉事務所現業員研修会	心理士

②県部局等

依 頼 機 関	内 容	従事者
総務事務センター 健康管理係	職員健康審査会	所長
	試し出勤に係る調整会議	所長
	試し出勤終了前産業医面接	所長
	心の健康づくり専門部会	所長
	メンタルヘルスマネジメント実践研修会	所長
	産業医面接	所長
人事委員会	障害者雇用に関する研修会	所長
高齢者生き生き推進課	高齢者虐待防止推進会議	所長
	認知症総合支援対策促進協議会	所長
障害福祉課	鹿児島県高次脳機能障害者支援協力病院指定 行進検討会	所長
	鹿児島県防災訓練ファシリテーター打ち合わせ及び県総合防災訓練	所長
	鹿児島県熊本県国民保護共同実働図上訓練	所長
	精神科病院実地指導, 指導	所長
	精神科病院実地審査・実地指導打合せ	所長
	措置入院3か月, 4か月診察	所長
	精神科医療救急システム連絡調整委員会	所長
	D P A T運営委員会	所長

	県障害者自立支援協議会	課長
	アルコール健康障害対策推進協議会	所長, 課長
	ギャンブル等依存症対策推進協議会	所長
	依存症専門医療機関・治療拠点機関等実務者会議	課長, 心理士
	発達障害者支援地域連絡協議会	所長
	精神科救急医療電話相談窓口従事者研修会	所長, 課長, 課員
	県精神保健福祉審議会	所長
	精神保健福祉従事者研修会	所長, 課長, 課員
	鹿児島県公衆衛生学会	所長
	借金・債務整理に関する無料相談会における「こころの悩み相談コーナー」	課長, 課員
保健医療福祉課	社会医学専門医プログラム管理委員会	所長
	鹿児島県社会医学系専門委員会	所長
薬務課	薬物乱用対策推進地方本部会議	所長
社会福祉課	生活保護による精神疾患入院要否意見書審査	所長
	生活保護法に基づく指定医療機関に対する個別指導の実施	所長
男女共同参画室	かごしま犯罪被害者等支援総会及び連絡協議会	課長
	児童扶養手当及び特別児童扶養手当診断書判定	所長
こども総合療育センター	こども総合療育センター連絡協議会	所長
中央児童相談所	子ども虐待防止ネットワーク会議	所長
県立短期大学	保健講演会	所長
	衛生委員会	所長
県立始良病院	医療観察病棟倫理会議	所長
	始良病院倫理委員会	所長
鹿児島県警察本部	ストレスチェック結果に基づく医師面接指導	所長
	試し出勤に係る医師面接指導	所長
	試し出勤に係る調整会議	所長
	試し出勤後産業医面接	所長
	職員健康相談	所長
	県警健康審査会	所長
国体・全国障害者スポーツ大会局	医事衛生班救護係 実施本部員説明会	課員
	開・閉会式等 救護	課長, 課員

③教育庁等

依 頼 機 関	内 容	従事者
義務教育課	いじめ問題対策連絡協議会	所長
教職員課	指導が不適切な教員に係る審査委員会	所長
高校教育課	教育機会の確保に関する意見交換会	心理士(代理出席)
	スクールソーシャルワーカー活用事業連絡協議会	心理士

	スクールカウンセラー配置事業研修会，臨床心理士等相談員派遣事業研修会，スクールソーシャルワーカー活用事業研修会，教育支援センター指導員研修会	心理士
総合教育センター	子供に関する相談機関の合同相談会「心のふれあい相談」	心理士
教育庁	県教育支援委員会	所長
県立鹿児島高等特別支援学校	鹿児島高等特別支援学生徒指導職員研修	所長，課員

④その他の関係機関

依 頼 機 関	内 容	従事者
県医師会	精神保健委員会	所長
鹿児島県女性相談センター	婦人保護業務に係る相談員及び担当係長など研修会	所長
県地域生活定着支援センター	県地域生活定着支援センター関係機関連絡会議	課長
かごしま子ども・若者総合相談センター	第1回実務者連絡会議	心理士
	第2回実務者連絡会議	
	かごしま子ども・若者支援地域協議会	心理士(代理出席)
	不登校に関する支援関係者のための研修会	保健師，心理士
	ひきこもりに関する支援者のための研修会	課長
鹿児島障害者職業センター	障害者雇用支援連絡協議会	所長
鹿児島公共職業安定所(鹿児島障害者就労支援ネットワーク会議事務局)	鹿児島障害者就労支援ネットワーク会議	支援員
鹿児島保護観察所	鹿児島県医療観察法制度地域連絡協議会	所長
	依存症問題を抱える者の家族を対象とした家族会	心理士
	地域支援連絡協議会	心理士
鹿児島少年鑑別所	地域援助推進協議会	心理士
法テラス	法テラス鹿児島地方協議会	心理士
障害者就労・生活支援センター	おおすすめ障害者就労・生活支援センター連絡会議	課長，支援員
	各地域 障害者就労・生活支援センター連絡会議	支援員
いのちの電話協会	鹿児島いのちの電話公開講座	所長
国立障害者リハビリテーションセンター	高次脳機能障害全国連絡協議会	課長，支援員
県精神保健福祉連合会(NPO法人かせいれん)	かせいれん総代会	所長，課長
	友愛フェスティバル	所長，課長，課員
	みんなねっと鹿児島大会	課員
アディクション問題研究会	アディクション問題研究会	課長，心理士
県多重債務対策協議会	借金・債務に関する無料相談(心の相談)	課長，課員
九州財務局鹿児島財務事務所	お金と心の無料相談会	心理士
日本精神科病院協会	災害精神保健医療担当者向け会議	所長
鹿児島精神科病院協会	鹿児島県精神科病院協会と鹿児島県弁護士会との合同協議会	所長
日本精神神経学会	日本精神神経学会シンポジウム	所長
鹿児島高次脳機能研究会	鹿児島高次脳機能研究会世話人会	所長
	鹿児島高次脳機能研究会	所長，課長，支援員
高次脳機能障害	高次脳機能障害「ぷらむ」鹿児島総会	所長，課長，支援員

「ぷらむ」鹿児島	高次脳機能障害「ぷらむ」家族交流会	支援員
宮崎県精神保健福祉センター	令和5年九州ブロック精神保健福祉センター所長会議及び研究協議会	所長
全国精神保健福祉センター長会	全国精神保健福祉センター長会及び定期総会	所長
鹿児島大学	鹿児島大学医学部臨床実習	所長
	鹿児島大学医学部保健学科作業療法専攻 精神医学講座	所長
鹿国国際ロータリークラブ	国際ロータリー第2730地区鹿児島市内グループIM	所長
産業保健総合支援センター	産業保健相談員関連機関連絡会議	所長
	鹿児島産業保健総合支援センター運営協議会	所長

(3) 教育研修

①精神保健福祉業務従事者研修会

実施日 (会場)	内 容	参加機関 (人数)
令和5年 6月2日	1 講話 「地域保健とメンタルヘルス」 県精神保健福祉センター 春日井 基文 所長 2 行政説明 「鹿児島県の自殺の現状と自殺対策の基本的な考え方」 県精神保健福祉センター 牛山 真里江 技術主査 3 講話 「自殺総合対策大綱の策定の見直しを踏まえた 地域自殺対策計画の策定・見直し」 JSCP 菅沼 舞 氏 4 取組報告 「垂水市における自殺対策の現状」 垂水市保健課 健康増進・元気プロジェクト係	保健所 市町村 <u>計 84 名</u>

②高次脳機能障害者支援に関する研修会

実施日 (会場)	内 容	参加機関 (人数)
令和5年 11月14日 (ハートピアかごしま)	【高次脳機能障害者支援のための専門家研修】 1 講 話 「高次脳機能障害のリハビリテーションとその支援のあり方」 講 師 有川 瑛人 氏 (加治木温泉病院総合リハビリテーションセンター 副技士長) 2 体験発表「つなぐ」 発表者 柿元 和子 氏	医療機関, 相談支援事業所, 障害福祉事業所, 介護保険事業所, 行政 等 <u>計 57 名</u>
令和5年 12月12日 (ハートピアかごしま)	【高次脳機能障害理解のための講演会】 (一般研修) 1 講話 「高次脳機能障害と社会的行動障害について～症状の特徴とその対応～」 講師：窪田 正大 氏 (鹿児島大学医学部保健学科作業療法学専攻 教授)	家族, 当事者, 医療福祉職, 一般県民 <u>計 57 名</u>

	2 家族による体験発表 「親子で闘い 味わった生きる喜び」 「ぷらむ」 鹿児島家族会員 千歳 康子 氏	
令和 6 年 3 月 5 日 (大隅地域振興局 別館大会議室)	【高次脳機能障害支援圏域研修会：大隅圏域】 1 講話「医療機関における高次脳機能障害者の支援について」 講師 黒木 一気 氏 (恒心会おぐら病院リハビリテーション部作業療法士) 2 情報提供「高次脳機能障害者の支援について」 (高次脳機能障害者支援センター支援員 辻村 伸代)	支援協力病院 相談支援事業所 障害福祉事業所、 訪看ステーション 行政 等 計 41 名

③自殺対策に関する研修会（自殺予防情報センター事業含む）

実施日 (会場)	内 容	参加機関 (人数)
令和 5 年 6 月 2 日 (ハートピアかごしま 及びオンライン開催)	【精神保健福祉従事者研修会】 1 講話 「地域保健とメンタルヘルス」 県精神保健福祉センター 春日井 基文 所長 2 行政説明 「鹿児島県の自殺の現状と自殺対策の基本的な考え方」 県精神保健福祉センター 牛山 真里江 技術主査 3 講話 「自殺総合対策大綱の策定の見直しを踏まえた 地域自殺対策計画の策定・見直し」 JSCP 菅沼 舞 氏 4 取組報告 「垂水市における自殺対策の現状」 垂水市保健課 健康増進・元気プロジェクト係	保健所、市町村 等 計 84 名
令和 5 年 7 月 4 日 (ハートピアかごしま)	【自殺対策関係者研修会（若年層）】 講演「ゲートキーパー講習」 講師 春日井 基文 氏（鹿児島県精神保健福祉センター所長）	大学生 等 計 51 名
令和 5 年 8 月 25 日 (ハートピアかごしま)	【自殺対策関係者研修（人材育成）】 講演 「子どものメンタルヘルスを理解する」 講師 佐々木 なつき 氏（鹿児島大学病院神経精神科）	医療機関、学校関 係、福祉サービス事 業所、行政、警察、 学生、一般住民等 計 91 名
令和 6 年 1 月 15 日 (ハートピアかごしま 及びオンライン開催)	【自殺未遂者支援研修会】 講演「自殺未遂者支援に活かしたいトラウマインフォームドケア」 講師 大岡 由佳 氏 (武庫川女子大学 心理社会福祉学部 社会福祉学科 准教授)	保健所、市町村 等 計 37 名
令和 6 年 2 月 19 日 (ハートピアかごしま 及びオンライン開催)	【自殺対策関係者研修会Ⅰ【子ども・若者の自殺対策】】 講演 「子ども若者の自殺対策を地域で進めていくために」 講師 高橋 聡美 氏 (一般社団法人 高橋聡美研究室)	保健所、市町村 等 計 69 名

令和 6 年 2 月 20 日 (ハートピアかごしま 及びオンライン開催)	【自殺対策関係者研修会Ⅱ（グリーフケア）】 講演「グリーフケアと支援者自身のメンタルケア」 講師：高橋 聡美 氏 (一般社団法人 高橋聡美研究室)	保健所，市町村 等 計 67 名
	【自殺対策取組事例の紹介・情報提供】 ・垂水市：垂水市のSOSの出し方・受け止め方教育事業 ・奄美市：保護者向け SOS の受け止め方講演会 「子どもの心に寄り添うために」～気持ち伝わる言葉の力～ ・県障害福祉課：かごしま県政出前セミナー 自殺対策～私たちにできること～ ・自殺予防情報センター：こころ・つむぎの会	

④依存症対策に関する研修会

実 施 日 (会 場)	内 容	参加機関 (人数)
令和 5 年 12 月 8 日 (オンライン開催)	【依存症回復支援・思春期精神保健福祉従事者研修会】 講演「ネット・ゲーム依存への対応」 講師 松崎 尊信 氏 (独立行政法人国立病院機構久里浜医療センター精神科診療部長)	保健所，市町村， 教育機関，医療機 関，相談機関等 計 273 名

⑤思春期精神保健福祉に関する研修会（再掲）

実 施 日 (会 場)	内 容	参加機関 (人数)
令和 5 年 8 月 3 日 (ハートピアかごしま)	【子どもに関する相談機関の合同連絡会】 講演「複合的な問題を抱える子どもへの支援 ～不登校事例を通じた取組み～」 講師 大倉 一真 氏 (一般社団法人パーソナルサービス支援機構)	子どもに関する 相談機関
令和 5 年 12 月 8 日 (オンライン開催)	【依存症回復支援・思春期精神保健福祉従事者研修会】 講演「ネット・ゲーム依存への対応」 講師 松崎 尊信 氏 (独立行政法人国立病院機構久里浜医療センター精神科診療部長)	保健所，市町村， 教育機関，医療機 関，相談機関等 計 273 名

(4) 学生等に対する教育・実習

対 象	内 容	回数 (回)	対象者数 (人)
鹿児島大学 医学部	学外臨床実習（医学科）等	13	170
鹿児島国際大学・鹿児島大学，鹿 児島純心大学，志學館大学	精神保健福祉援助実習並びに 公認心理師実習	4	62
計		17	232

3. 精神保健福祉相談

心の健康相談や精神医療に係る相談，アルコール，薬物，思春期，認知症に関する相談など精神保健福祉全般の相談を実施している。来所相談は予約制で，新規相談は毎週木曜日の午前中に開設。また，専門相談として，思春期相談（年16回），年10回依存症相談（年10回），薬物相談（年12回）を行っている。

（1）来所相談・・・センター医師および専門医師が対応した面接相談

①来所相談件数推移

（単位：件）

年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
新規相談（実）	75	62	35
継続相談（実）	21	14	12
計	96	76	47
（相談延べ件数）	（229）	（169）	（137）

新規相談は本年度初回，継続相談は前年度からの継続

②新規相談者の内訳

②－1 年齢別相談者人数（新規）

（単位：人）

年齢	～9	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70以上	不明	計
男	0	4	8	2	5	2	0	0	0	21
女	1	7	3	1	1	1	0	0	0	14
計	1	11	11	3	6	3	0	0	0	35

②－2 保健所別相談者数

保健所	人	保健所	人	保健所	人
鹿児島市	20	川薩	3	西之表	0
指宿	0	大口	0	屋久島	0
加世田	0	姦良	5	名瀬	0
伊集院	1	志布志	0	徳之島	0
出水	0	鹿屋	3	不詳・県外	3

②－3 相談の処置別人数（新規）

処置	人数（人）
継続	0
他機関紹介	0
終結	35
計	35

③相談理由別人数(新規)

(単位:人)

相談理由	人数	相談理由	人数
気分が不安定	7	おかしい言動	1
眠れない	1	飲酒に伴う問題	1
食事がとれない	0	薬物依存の問題	2
不安・恐怖・こだわりが強い	4	ギャンブルに伴う問題	3
学校に行けない, 学校に適応できない	2	家族・近隣との問題	2
職場に行けない, 職場に適応できない	5	その他行動上の問題	3
家から外に出ることができない	1	性格・対人関係の問題	1
もの忘れ	0	その他	2
計			35

④新規相談および延べ相談者の相談内容別件数

(単位:件)

	老人精神	社会復帰	アルコール関連問題	薬物	ギャンブル・ゲーム	思春期	心の健康	うつ・うつ状態	その他	合計
新規	0	1	1	1	3	12	9	2	6	35
延べ	0	1	28	1	3	12	16	10	66	137

(2) 保健師, 心理士が対応した来所面接相談

(単位:件)

	老人精神	社会復帰	アルコール関連問題	薬物	ギャンブル・ゲーム	思春期	心の健康	うつ・うつ状態	その他	合計
対応数	0	0	3	4	3	7	6	0	4	27

(3) 電話相談

①電話相談延べ件数推移

(単位:件)

年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
延べ件数	4,025	3,010	2,174

②相談内容

相談内容		人数(人)
精神科疾患に関すること	病気・治療・薬のこと	162
	うつ・うつ状態	61
	社会復帰・福祉制度等	23
	人間関係・日常生活	849
	家族等の対応	75
	その他	48
認知症・介護に関すること		37
アディクション関連問題	アルコール	67
	シンナー・薬物	27
	ギャンブル	54

	ゲーム	4
	過食・拒食等	3
	その他	2 4
思春期問題に関すること	不登校・ひきこもり	2 5
	学校生活（いじめ・友人関係等）に関すること	3
	情緒不安定	2 6
	身体的不調（頭痛・腹痛・倦怠感）	6
	性格・行動	2 3
	発育・発達に関すること	2 3
	非行・反社会的行動	3
	その他	1 7
心の健康に関すること	言動が奇異	2 1
	気分の落ち込み・うつ状態	4 9
	希死念慮	1 5
	不安・恐怖・こだわり	3 4
	家族関係の悩み・ストレス	1 2 9
	職場関係の悩み・ストレス	4 4
	その他人間関係の悩み・ストレス	4 0
	ひきこもり	1 1
	DVに関すること	3
	病院・相談機関等の情報	5 6
	その他	5 7
その他		1 5 5
計		2, 1 7 4

（４）新型コロナウイルスに関する相談

- ① 専用電話での相談業務は、令和２年７月～令和３年３月まで実施。
以降は通常の電話相談で対応（令和５年度の実績は９件）。

４．思春期精神保健対策事業

精神保健福祉相談のなかでも「特定相談」に指定され、知識の普及や相談指導等思春期における個別相談や研修会を実施している。

（１）思春期相談（再掲）

年１６回（毎月１～２回）専門医による相談を実施するとともに、心理士・保健師による来所相談、電話相談を行っている。

（単位：人）

	令和３年度	令和４年度	令和５年度
来所相談	3 5	3 1	1 9
電話相談	1 5 1	1 4 1	1 2 6

①来所者年齢内訳

(単位：人)

小学生	中学生	高校生	中卒 高校中退	高卒 大学生	計
3	5	11	0	0	19

②来所者主訴内訳

(単位：人)

不登校 ひきこもり	情緒 不安定	身体的 不調	性格 行動	非行 反社会的行動	その他	計
3	5	1	7	0	3	19

5. 依存症対策関連事業

平成29年9月に、精神保健福祉センターに依存症相談拠点を設置し、相談員による依存症専門相談窓口を開設した。

平成30年4月からは、専門医による依存症専門相談窓口を開設するとともに、依存症家族教室を開始している。

(1) 依存症相談(再掲)

年10回専門医による相談を実施するとともに、心理士・保健師による来所相談、および電話相談を実施している。

(単位：人)

	専門医	相談員	電話相談	計
アルコール	0	3	67	70
薬物	0	4	27	31
ギャンブル	3	3	54	60
その他	0	0	31	31

※ 薬物依存症については、令和元年7月から Voice Bridge Project に参加し継続的な支援を行っている。

(2) 依存症家族教室(平成30年度から開催)

令和2年度より、①アルコール・薬物依存症家族教室 ②ギャンブル等依存症家族教室に分け、本人や家族の回復に必要な知識や関わり方を学び、家族同士の交流を通じて支え合うことを目的に開催している。

①アルコール・薬物依存症家族教室

月1回×5回を1クールとし、前期・後期に分けて開催した。

(内容及び参加人数)

(単位：人)

テーマ	開催月	参加家族人数
オリエンテーション・依存症とは	5月	3
本人を治療につなげていくために～望ましいコミュニケーション～	6月	2
家族にできること・再発や再使用に備える	7月	4
コミュニケーションスキルの練習	8月	3

家族のセルフケアと振り返り	9月	2
前期 合計（実人数）		6
前期 合計（延べ人数）		14
オリエンテーション・依存症とは	11月	1
本人を治療につなげていくために～望ましいコミュニケーション～	12月	0
家族にできること・再発や再使用に備える	1月	2
コミュニケーションスキルの練習	2月	1
家族のセルフケアと振り返り	3月	2
後期 合計（実人数）		3
後期 合計（延べ人数）		6

②ギャンブル等依存症家族教室

月1回×5回を1クールとし、前期・後期に分けて開催した。

（内容及び参加人数）

（単位：人）

テーマ	開催月	参加家族人数
オリエンテーション・ギャンブル等依存症とは	5月	3
本人を治療につなげていくために～望ましいコミュニケーション～	6月	3
借金問題への対応について	7月	1
家族ができること・長期的な回復を支える	8月	3
家族のセルフケアと振り返り	9月	1
前期 合計（実人数）		3
前期 合計（延べ人数）		11
オリエンテーション・ギャンブル等依存症とは	11月	3
借金問題への対応について	12月	3
本人を治療につなげていくために～望ましいコミュニケーション～	1月	3
家族ができること・長期的な回復を支える	2月	2
家族のセルフケアと振り返り	3月	4
後期 合計（実人数）		6
後期 合計（延べ人数）		15

6. 調査研究

地域精神保健福祉活動を推進するために以下の調査研究を行った。

- 鹿児島県内大学・短期大学の自殺予防対策の現状と課題に関する調査・考察を行い、公衆衛生学会にて報告を行った。

また、厚生労働省依存症調査研究事業「保護観察の対象になった薬物依存症者のコホート調査システムの開発とその転帰に関する調査（VBP）」の鹿児島県在住対象者の聞き取り・支援等について協力した。

7. 関係団体の育成

地域精神保健福祉の向上を図るため、家族会、患者会等の支援を行っている。

(単位：回)

対象	内容	回数
鹿児島県精神保健福祉会連合会	理事会等	6
鹿児島県断酒友の会	ミーティング	10
アルコール依存症家族の会	ミーティング	0
ひきこもり家族の会	ミーティング	10
セルフヘルプネットかごしま	例会	13
こころ・つむぎの会	例会（分かち合いの会）	0
高次脳機能障害「ぷらむ」鹿児島	家族交流会	4
計		43

(1) 鹿児島県精神保健福祉会連合会（略称 NPO法人かせいれん）

昭和 59 年 9 月に鹿児島県精神障害者家族会連合会として発足し、平成 21 年 6 月に解散して鹿児島県精神保健福祉会連合会として活動を一本化。現在、9 の地域家族会と 1 つの病院家族会、6 施設で活動している。友愛フェスティバルの開催等行い、文化・創作活動振興を行っている。

(2) 鹿児島県断酒友の会

昭和 46 年に発足し、毎月 1 回例会を行い、お互いの酒害体験や些細な日常生活のことなどを語り合い、支えあうことによって断酒を一日ずつ積み重ねている活動を行った。

(3) アルコール依存症家族の会

平成 7 年度から開催していた「アルコール依存症家族教室」の参加者を中心に結成。平成 13 年度から家族ミーティングを主体とした家族の会となり、毎月 1 回実施している。令和 3 年度、新型コロナウイルス感染防止のためとメンバーの高齢化に伴い休会したい旨の申し出があった。電話相談には応じるとしている。

(4) セルフヘルプネットかごしま

平成 12 年度に地域活動支援センター「ソーバーハウス」と共催で「セルフヘルプフォーラム」を開催。平成 15 年度からは当事者の代表者と支援者で構成される「セルフヘルプネットかごしま」として活動を開始した。年 1 回のフォーラムと毎月 1 回定例会を行っている。現在当事者団体は 4、支援者団体は 7。

(5) ひきこもり家族の会

平成 15 年度から 3 か年計画で「ひきこもり家族教室」を開催し、平成 19 年度からは「ひきこもり家族の会」としてセンター主催で開催していたが、平成 29 年 4 月からは自助グループとして毎月 1 回活動を継続している。

(6) こころつむぎの会

平成 20 年 9 月に開催した「自殺対策シンポジウム I N 鹿児島」で自死遺族から分かち合いの会を望む声があがり、同年 12 月に「分かち合いの会」準備会を開催し家族、助言者を交えて検討をし、平成 21 年 8 月に分かち合いの会「こころ つむぎの会」をスタートさせた。偶数月に開催している。

(7) 高次脳機能障害「ぷらむ」鹿児島

平成 16 年 9 月に、6 家族で脳外傷「ぷらむ」鹿児島を設立。平成 19 年 4 月に高次脳機能障害「ぷらむ」鹿児島と名称変更。家族・当事者の交流会として「クリスマス会」「一日バス旅行」「パソコン教室」を行い、他に、講演会の開催協力、会報誌の発行等も行っている。令和 5 年 4 月現在、会員は 40 家族、109 人で活動している。

8. 精神医療審査会の審査に関する事務

精神科病院に入院中の者や家族等からの退院や処遇改善の請求について、その請求が適正であるか、また、医療保護入院の届出、措置入院者及び医療保護入院者に係る定期病状報告書について、その入院の必要性を審査している。また、審査会専用の電話を設置し、退院等請求者に対応している。

(1) 審査会開催状況

合議体審査会・・・27回（9回×3合議体）

全体会・・・・・・・・・・1回

(2) 退院等請求の審査状況推移

(単位：件)

年度	措置入院者 定期病状報告書	医療保護入院者 入院届	医療保護入院者 定期病状報告書	計	退院・処遇 改善請求件数	退院・処遇 改善請求 審査件数
R 1	17	2,541	1,562	4,120	128	78
R 2	20	2,484	1,578	4,082	150	68
R 3	27	2,583	1,650	4,260	123	69
R 4	19	2,657	1,614	4,290	132	66
R 5	20	2,406	1,524	3,950	113	64

9. 自立支援医療費（精神通院）及び精神障害者保健福祉手帳の判定交付事務

自立支援医療費（精神通院）の支給認定及び精神障害者保健福祉手帳の申請に対する審査を行い、受給者証及び手帳の交付を行っている。

（1）自立支援医療費（精神通院）

①自立支援医療費（精神通院）申請承認件数推移（有効期限切れを除く）

（単位：件）

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
申請件数	27,457	28,152	28,993
承認件数	27,453	27,151	28,988

②疾患名・年齢別自立支援受給者証交付者数（令和5年度）

（有効期限切れを除く）

（単位：人）

疾患名		総数	自立支援受給者証交付者数				
			20歳未満	20歳以上 40歳未満	40歳以上 65歳未満	65歳以上 75歳未満	75歳以上
F0	症状性を含む器質性精神障害	1,087	0	64	340	261	422
F1	F10 アルコール使用による精神及び行動の障害	653	0	30	357	186	80
	覚せい剤及び覚せい剤を除く精神作用物質使用による精神及び行動の障害	54	0	7	40	5	2
F2	統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	9,374	40	1,452	5,552	1,849	481
F3	気分(感情)障害	10,979	66	2,518	6,125	1,744	526
F4	神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害	1,857	65	661	893	185	53
F5	生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群	40	3	16	15	3	3
F6	成人のパーソナリティ及び行動の障害	158	2	70	70	13	3
F7	精神遅滞〔知的障害〕	392	10	153	184	40	5
F8	心理的発達の障害	967	188	561	211	7	0
F9	小児期及び青年期に通常発症する行動及び情緒の障害及び特定不能の精神障害	628	121	352	152	2	1
F99	特定不能の精神障害	4	0	1	2	1	0
G40	てんかん	2,795	294	994	1,104	323	80
	計	28,988	789	6,879	15,045	4,619	1,656

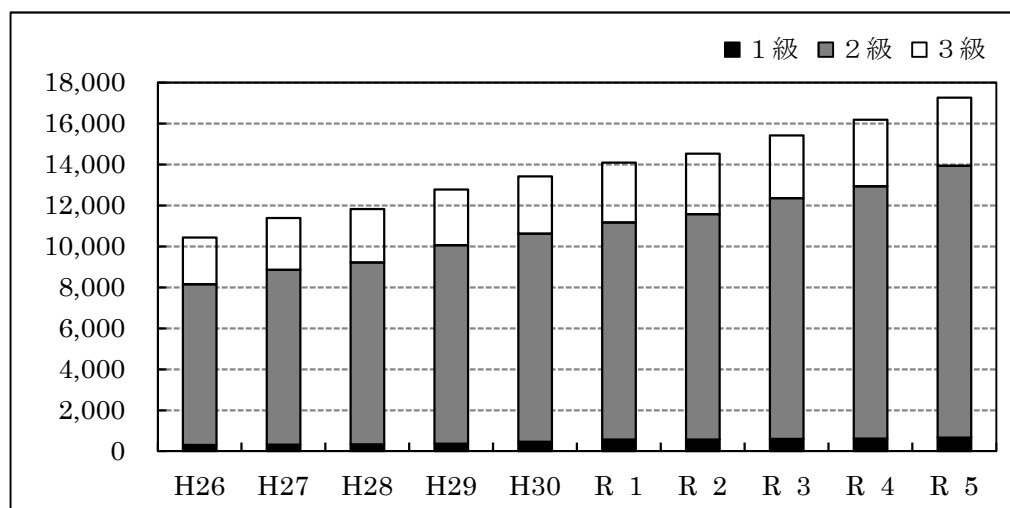
(2) 精神障害者保健福祉手帳所持者数推移

(単位：人，%)

年度	1 級	2 級	3 級	計
H 2 6	3 0 4	7, 8 4 8	2, 2 8 0	1 0, 4 3 2
	2.9	75.2	21.9	
H 2 7	3 2 3	8, 5 3 8	2, 5 2 9	1 1, 3 9 0
	2.8	75.0	22.2	
H 2 8	3 4 3	8, 8 8 0	2, 6 0 7	1 1, 8 3 0
	2.9	75.1	22.0	
H 2 9	3 6 4	9, 6 9 7	2, 7 2 6	1 2, 7 8 7
	2.9	75.8	21.3	
H 3 0	4 5 8	1 0, 1 6 3	2, 8 0 4	1 3, 4 2 5
	3.4	75.7	20.9	
R 1	5 7 1	1 0, 5 9 9	2, 9 2 7	1 4, 0 9 7
	4.1	75.2	20.7	
R 2	5 7 4	1 0, 9 6 6	2, 9 6 2	1 4, 5 3 2
	3.9	75.7	20.4	
R 3	6 1 0	1 1, 7 5 0	3, 0 6 6	1 5, 4 2 6
	3.9	76.2	19.9	
R 4	6 2 3	1 2, 3 1 2	3, 2 5 1	1 6, 1 8 6
	3.9	76.2	19.9	
R 5	6 6 6	1 3, 2 6 3	3, 3 3 4	1 7, 2 6 3
	3.9	76.8	19.3	

※手帳の有効期限切れを除く，各年度末の所持者数を記載

※上段は所持者数，下段は構成比



精神障害者保健福祉手帳所持者数

(人)

10. 高次脳機能障害者支援センター

平成 20 年 9 月高次脳機能障害者への支援拠点機関として、精神保健福祉センター内に設置され、高次脳機能障害者支援員が高次脳機能障害者に対する専門的な相談支援、関係機関との地域支援ネットワークの充実、関係者への研修等を行っている。

平成 30 年に支援協力医療機関の指定が始まり、5 年毎の指定更新事務を経て、令和 5 年 8 月現在 34 医療機関が指定されている。

(1) 来所相談

(来所相談延べ件数推移)

(単位：件)

年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度
延べ件数	5 5	4 2	3 1

(2) 電話相談

(電話相談延べ件数推移)

(単位：件)

年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度
延べ件数	4 7 1	4 2 2	2 9 1

(3) 研修会の開催（詳細は、教育研修参照）

- 専門家研修・・・支援協力病院等の医療関係者や高次脳機能障害者支援に関わる
機会の多い関係機関の職員等を対象とする研修会。
- 圏域研修・・・保健医療福祉圏域毎に、専門家を対象に研修会を開催している。
- 一般研修・・・一般県民に対し高次脳機能障害の理解を促すための講演会を実施。

(4) センターだよりの作成

センターの活動実績やトピックス等のまとめとして年 1 回発行し、協力医療機関や関係機関等に配布し、周知・広報に役立てている。

(5) リーフレットの配布

- ・高次脳機能障害支援ガイド ＜高次脳機能障害の理解のために＞
- ・鹿児島県高次脳機能障害者連携支援ノート「わたしのノート」＜適切な支援のために＞

11. 自殺予防情報センター

平成 21 年自殺対策を推進するため、精神保健福祉センター内に設置され、自殺対策調整員が自殺に関する情報収集・分析、情報提供や自殺対策に関わる団体・人材の育成、自死遺族等の支援を行っている。

(1) 来所相談

(来所相談延べ件数推移)

(単位：件)

年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度
延べ件数	6	2	4

(2) 電話相談

(電話相談延べ件数推移)

(単位：件)

年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度
延べ件数	1, 1 4 9	6 6 0	4 8 0

(3) 研修会の開催 (詳細は (3) 教育研修参照)

本県が重点的に自殺対策を講じる必要がある課題は、「高齢者」、「生活困窮者」、「被雇用者・勤め人」に加えて、死因の第 1 位が自殺となっている「子ども・若者」や自殺未遂者などの「ハイリスク者」となっている。

○「若年層支援者向け研修会」を開催

内容①講話「ゲートキーパー講習」

内容②講話「子ども若者の自殺対策を地域で進めていくために」

○「自殺未遂者支援のための研修会」を開催

内容①講話「自殺未遂者支援に活かしたいトラウマインフォームドケア」

○「自殺対策関係者向け研修会」を開催

内容①講話「市町村自殺対策計画の見直しについて」

内容②講話「グリーフケアと支援者自身のメンタルケア」

内容③取組紹介・情報提供

・垂水市：垂水市の SOS の出し方・受け止め方教育事業

・奄美市：保護者向け SOS の受け止め方講演会

「子どもの心に寄り添うために」～気持ちが伝わる言葉の力～

・障害福祉課：かごしま県政出前セミナー 自殺対策～私たちにできること～

・自殺予防情報センター：こころ・つむぎの会について